

## 第4回多言語競演レシテーション大会

国際関係学科 高阪 香津美

2008年度から始まり、今年で4回目を迎える「多言語競演レシテーション大会」が学祭期間中である11月5日(土)にS201教室で開催された。この大会は、本学で学習中の外国語(および留学生の日本語)で文学作品等の一節を暗唱し、学習年数ごとに分かれてそのパフォーマンスを競い合うというものである。今年度は第1部(学習1年目の履修生対象)から7組、第2部(学習2年目以上の履修生対象)から9組、計16組が出場し、3分という制限時間の中で日頃の学習の成果を披露した。以下に、出場者、ならびに、演題を当日の発表順に記す。

### 【第1部】

中国語:田畑倫子、前川はるな [中国学科1年]

演題:『鵲橋仙』 秦觀

ポルトガル語:内田葵 [スペイン語圏専攻1年]

演題:“O homem e a galinha” 『男とめんどり』

Ruth Rocha (フチ・ハウシャ)

フランス語:小木曾令那、澤田麻梨絵 [フランス語圏専攻1年]

演題:“L'Homme qui plantait des arbres” 『木を植えた男』

Jean Giono(ジャン・ジオノ)

ロシア語:猪狩春樹 [国際関係学科1年]

演題:プーシキンの抒情詩『アンナ・ケルンに』 А. ПУШКИН, “К А. П. Керн”

スペイン語:松尾英恵 [スペイン語圏専攻1年]

演題:“Gracias” 『ありがとう』

El Gran Combo (エル・グラン・コンボ)

ドイツ語:曾根小百合、杉山恵里、山根秀介 [ドイツ語圏専攻1年]

演題:“Meine Wohnung” 『住まい』

Franz Specht (フランツ・シュペヒト)

朝鮮語:岡田彩花 [英米学科3年]

演題:『つつじの花』 金素月、『幸福』 柳致環

## 【第2部】

ロシア語:上坂勇喜 [ドイツ語圏専攻2年]

演題:“Предисловие”

産経新聞『多言語の世界をひらくー赤ちゃんと言葉の不思議』

(1996年9月9日～10月18日27回にわたり連載)の改題・一部改定のまえがきの一部

文 榊原陽 訳 Андрей Анатольевич Полтрак

英語:フイジオ・サラ・ロンガット [英米学科1年]

演題:“Internationalization of the world”

『世界の国際管理化』 (“Internacionalização do mundo”英訳版)

Cristovam Buarque (クリストヴァン・ブアルケ)

日本語:兪納辰(ユ・ゼイシン)[教育発達学科2年]

劉英蓮(リュウ・エイレン)[国際関係学科2年]

演題:『方丈記』 鴨長明

スペイン語:水越ジェマディー [スペイン語圏専攻2年]

演題:“El monólogo de la Agradación” 『ラ・アグラードの独白』

Guión original de la película de Pedro Almodóvar “Todo sobre mi madre”(ペドロ・アルモ  
ドバル監督の映画『オール・アバウト・マイ・マザー』脚本より)

ドイツ語:上坂勇喜、内藤瑞絵 [ドイツ語圏専攻2年]

演題:“Fernsehabend” 『テレビの夕べ』

Loriot (ロリオット)

ポルトガル語:眞野綾 [スペイン語圏専攻2年]

タイペ・マリエラ [国際関係学科3年]

演題:“Garota de Ipanema” 『イパネマの娘』

詞 Vinícius de Moraes (ヴィニシウス・ジ・モライス)

曲 Antonio Carlos Jobin (アントニオ・カルロス・ジョビン)

英語:栗津万理 [国際関係学科1年]

演題:“Final Speech of *The Great Dictator*”

『独裁者』最後の演説

Charles Chaplin (チャールズ・チャップリン)

フランス語: 杉浦桃子、水谷奈苗 [フランス語圏専攻2年]

演題:“La Cigale et la Fourmi” 『セミとアリ』、“Le Lièvre et la Tortue” 『ウサギとカメ』

Jean de La Fontaine (ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ)

英語:青木明日香 [英米学科1年]

演題:“Tomorrow Never Comes” 『最後だとわかっていたなら』

Norma Cornett Marek (ノーマ・コーネット・マレック)

### <大会結果>

本大会では聴衆による投票と審査委員会の協議により優秀者を決定する。今年度は、第1部62名、第2部59名からの投票により、以下の通り、最優秀賞、ならびに、優秀賞が選ばれた。

#### 第1部

■最優秀賞 中国語:田畑倫子、前川はるな [中国学科1年]

■優秀賞 ポルトガル語:内田葵 [スペイン語圏専攻1年]

#### 第2部

■最優秀賞 スペイン語:水越ジェマディー [スペイン語圏専攻2年]

■優秀賞 英語:栗津万理 [国際関係学科1年]

このほか、審査委員会による協議により、以下の通り、特別賞の2組が決定した。

■学長賞 日本語:兪訥辰(ユ・ゼイシン)[教育発達学科2年]

劉英蓮(リュウ・エイレン)[国際関係学科2年]

■外国語学部長賞 朝鮮語:岡田彩花 [英米学科3年]

### ～受賞者の声～



第1部 最優秀賞(中国語)  
前川はるなさん(左側) 田畑倫子さん(右側)

□私たちは自分たちの発音の悪さや覚えの悪さに、初めは練習へ行くことにとても不安を感じていました。しかし、練習を重ねるにつれて発音の仕方などに慣れ、練習を楽しく感じられるようになり、ちょうどこの頃から先生に「進歩したね」と言ってもらえるようになりました。語学を学ぶにあたって、毎日の積み重ねと、話すことを楽しむことが大切であるということを改めて感じることができました。私たちが自信をもって本番当日を迎えられたのは、熱心に指導して下さった先生方や応援してくれた友達のおかげです。私たちはこのレシテーション大会を通じて、賞以上の何かを得ることができたと思います。本当にありがとうございました。



第2部 最優秀賞(スペイン語)  
水越ジェマディーさん

□大会に参加してとても良かったと思いました。良い経験にもなりました。自分の実力を判断できた上、スペイン語を勉強していてどれくらい成長したかも確認することができたと思います。大会に向けて先生と沢山練習をしていて、先生とも仲良くなったような気がします。大会に優勝できたことは嬉しく思いました。しかし、なによりも先生方や当日大会を見に来てくれた母の笑顔を見られたことが私にとって1番嬉しく思ったことです。他の言語を聞くこともでき、普段体験できないことをすることができたと思います。皆さんの発表の内容も面白かったと思います。中には聞いていて感動した作品もありました。大会を終えて新しい友達もできました。

□レシテーション大会に参加したことで、とても良い経験をすることができたと思います。練習はポルトガル語の学習につながりました。大会を終え、もっとポルトガル語の発音が上手になりたい、話せるようになりたい！と前より強く思うようになりました。練習も大変でしたし大会は緊張しましたが、とても楽しかったです。参加してよかったです。



第1部 優秀賞(ポルトガル語)  
内田葵さん



第2部 優秀賞(英語)  
栗津万理さん

□大会に向けた練習は、自分の発音、表現力を研く非常に良い機会でした。自転車に乗っている時など、今でも思わず暗唱の文句を口ずさみたくなります。異なる言語が同時に競うこのような大会は、経験したことがなくとても楽しかったです。当日順番や時間変更に関する運営側のトラブルから大会の公平性の問題が生じましたが、今後このようなことがないよう、本大会が私達学生の語学学習の一つの柱となっていけば良いと強く感じました。



学長賞(日本語)

兪洵辰さん(左側) 劉英蓮さん(右側)

□今回の多言語競演レシテーション大会で受賞することができ、まず、指導して下さった先生にお礼を言いたいです。そして、今回一緒に出場した仲間たちが大会の直前に家族の急病で国に帰らなければいけなくなり、一人は日本に戻れなくなってしまいました。その中で、最後まで一緒に頑張ってくれた子に“ありがとう”と伝えたいです。最後に、自分が勇気を出して挑戦し、受賞もできたため、嬉しいと同時に、とても充実感に溢れています。とても大切な経験になりました。(劉さん)

□私たちは外国人留学生として、日本語で暗唱するのは初めてだったので、緊張しました。しかし、本番では練習よりうまくいきました。3, 4カ月をかけてたくさんの練習をしました。今回の機会のおかげで、日本の古典を学ぶことができ、日本の文化に触れることもできました。本当に参加してよかったと思いました。(兪さん)

□賞をいただけて大変うれしく思います。ありがとうございました。レシテーション大会に参加するのは二回目になります。前は英語でしたが今回は朝鮮語で参加しました。今年度新しく学んだ言語でしたので、朝鮮語独特の発音やリズムに苦労しました。先生にご指導いただき、家ではCDを聞きながら練習をしました。当日はとても緊張しましたが練習の時に思い出しながら、頑張りました。他の言語の発表も聞くことができ、とても興味深かったです。



外国語学部長賞(朝鮮語)

岡田彩花さん

～出場者の熱演の様子～



舞台を大きく使ってダイナミックに



身ぶり手ぶりで感情表現豊かに(上)

二つの外国語でエントリー(右)





第4回多言語競演レシテーション大会出場者

◇レシテーション大会担当者から

受賞を果たした者もそうでなかった者も、この大会にかけてきた思いが伝わる非常に素晴らしいパフォーマンスでした。外国語学習に対する情熱を持ち続け、さらなるステップアップをはかってもらいたいと思います。大会の運営に関し、第2部において遅刻者がいたことで、他の出場者や聴衆の皆さんにはご迷惑をおかけしました。教育的配慮から遅刻者の発表順を最後にし、遅刻者以降の出場者の発表順を1つずつ繰り上げました。これについて、公平さを欠くと感じた者もいたようです。出場者の遅刻という事態は今大会が初めてであり、出場者が遅刻した場合への対処については今後の課題となりますが、教育的配慮と公平性のバランスをかりながら、今後も出場者の練習の成果が存分に発揮できるような大会運営を心がけていきたいと思います。最後に、このたびのレシテーション大会開催にご尽力下さいましたすべての皆様に感謝申し上げます。

多言語競演レシテーション大会実施について

【出場者】

- ・暗唱する者は、その言語を今年度本学で授業（全学共通・外国語科目及び外国語学部専門科目）を受講し学習している学生であることとする。
- ・当該言語の学習年数により第1部と第2部にわけ、各部で出場者を募る。第1部は学習1年目（当該言語圏に3ヶ月以上滞在したことがないこと）の履修者を、第2部は学習2年目以上（英語と日本語は第2部のみの募集とする）の履修者を対象とする。
- ・第1部と第2部、それぞれ一言語1件を担当教員が選抜する（ただし英語は、3～4件）。規定時間内で2名以上が一つの作品を演じる場合、1件として参加できる。

【発表】

- ・1件につき暗唱時間3分（移動・準備・片付け含め5分）とする。その間、関連する写真等を投影する。また、聴衆には暗唱内容の和訳と背景等を書いた印刷物を配布する。

【審査】

- ・暗唱度、表現力、映像・印刷物の準備度、仲間力等を総合的に評価し、審査する。

※出場者募集用ポスターの内容を簡略化している。